

ファイアースピリット VOLUNTEER



三原南方方面隊鷺浦分団 ヘリコプター支援訓練

9月22日(日)三原市鷺浦町(佐木島)で、島内において救急患者が発生した想定で、広島県防災ヘリコプター・広島県ドクターヘリを利用した患者搬送訓練を実施しました。団員35名が参加し、佐木島に配備されている急患搬送車からヘリコプターへ搬入する要領を熱心に研修しました。今回は、5月1日から運航を開始した「広島県ドクターヘリ」を利用した訓練を実施しました。このドクターヘリは、医師や看護師が救急現場等へ向かい、少しでも早く傷病者に救命医療を開始することで、救命率の向上や後遺症の軽減等を図ることを最大の目的としています。得に島しょ部など地域医療の充実強化につながります。今後の救急医療に大きく役立ちます。



目次

三原南方方面隊鷺浦分団 ヘリコプター支援訓練 P 1

消防団活動状況 P 2~4

優勝を目指して…/選手に選ばれて P 4

平成25年度 三原市消防団入団式・研修会

とき 平成25年4月21日(日) 9時～12時
場所 三原市消防本部
参加人員 39名

4月21日(日)、三原市消防本部で新入団員の入団式と研修会が行われました。
式は、加村団長の訓示と中本消防長の祝辞を受け新入団員を代表して大和北分団の越水逸三団員が決意表明しました。



式典後、消防本部署庭において消防団の基本である礼式訓練を広島県消防協会訓練指導員のもと、厳しく指導を受けました。

平成25年度 三原市消防団第1回分団長会議

とき 平成25年5月31日(金) 15時～17時
場所 三原市消防本部
参加者 51名



5月31日(金)、三原市消防団第1回分団長会議が開催されました。天満市長、末久生活環境部長をはじめ市内30分団の分団長、団長、団幹部が出席されました。会議の冒頭、市長より「消防庁長官表彰」の伝達が行われ5名が受賞されました。

市長は挨拶の中で、深町で発生した林野火災において消防団の昼夜を問わない、献身的な消火活動に対し感謝と今後の期待を述べられました。その後、年間の行事、訓練



平成25年度 水防訓練

とき 平成25年6月16日(日) 9時～12時
場所 沼田川河川防災ステーション
参加者 173名

6月16日(日)、沼田川河川防災ステーションにおいて消防関係者約160名が参加し、定例の水防訓練を行いました。全国で多発する水害に備えて、「土のう作り」「改良

積み土のう工法」「シート張り工法」「木流し工法」の各種工法の手順確認や工法技術の向上と士気の高揚を図りました。



積み土のう(改良型)工法



土のう作り



木流し工法



シート張り工法

第37回三原消防まつり

とき 平成25年7月20日(土) 15時~17時
場所 三原リージョンプラザ

7月20日(土)、三原リージョンプラザ屋外広場において、市民と消防のふれあいを目的に「第37回三原消防まつり」を開催しました。

イベントでは、放水体験をはじめ、煙体験、ロープ渡りを行うとともに、救急コーナーでは女性消防団員による応急手当の体験、劇によるAEDの救命法が実演されました。

当日は、土曜日でもあり家族連れなど約2000人の市民が来場し、消防の関心の高

さを確認することができました。今後さらに住民の防火・防災意識の高揚と消防に対する理解と協力を深め、住民の安全・安心の確保に努めます。



児童クラブの救命体験

女性消防団員は、8月23日(金)、明神児童クラブ(明神会館)の子ども達に救命講習を行いました。講習では、女性消防団員が行う、正しい心臓マッサージのやり方や、AEDの必要性をわかりやすく、楽しく一緒に勉強しました。

子ども達は、「命の大切さ」を身をもって学ぶことができました。

活動フォトコーナー



平成25年度広島県消防ポンプ(小型ポンプ)操法競技大会出場壮行式

とき 平成25年9月1日(日) 9時30分
場所 沼田川河川防災ステーション



平成25年度広島県消防ポンプ(小型ポンプ)操法競技大会

とき 平成25年9月7日(土) 10時00分
場所 広島県消防学校(広島市)



9月7日(土)2年に一度、県内消防団員による平成25年度広島県消防ポンプ操法(小型ポンプ)競技大会が、広島市の広島県消防学校において開催されました。

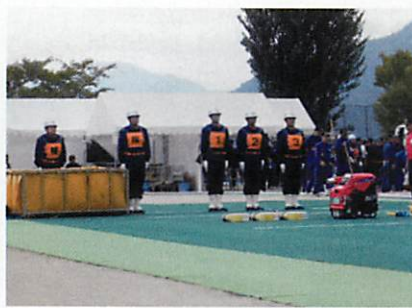
ポンプ操法とは、消防ポンプを使って消火活動を行うための操作要領で、この訓練を通して、旺盛な奉仕の精神、強固な組織力、迅速な消火活動技術を養うことが目的の「基本訓練」であり、消防団の充実強化にとっても重要な訓練です。

気合を胸に勇壮な入場行進



開会式(22チーム出場)





操法開始

に、三原市の代表として三原中央方面隊(東部・中部・西部・南部・西野分団の選抜)が出場しました。県内各消防団22チームの出場で競技は開始されました。

操法競技は、前方約60mの位置に置かれた標的を火点と想定し、ホース延長して放水を行い、その活動について各隊員の規律、操作要領、行動、操作全般及びホース延長ならびに有効放水の所要時間について審査されました。

三原市内の火災発生状況

1月~11月			
種別	25年	24年	増減
建物	16	23	-7
林野	8	6	+2
車両	7	12	-5
船舶	0	0	0
その他	26	19	+7
合計	57	60	-3



左から新宅(1番員)、佐藤(指揮者)、山根副団長、上本(3番員)、木下(2番員)、中井(補助員)

私がポンプ操法の代表選手候補に選ばれた時、正直うれし気持ちより不安の方が大きかったです。入団して1年の新人で大学、予備校、就職活動などがあり、ともに練習にも参加できていない状態でした。それでも最後まで諦めず訓練をしてこられたのも、西野分団の方々の始め、この訓練等を支えてくださった方々のおかげだと思います。

訓練は体力面、精神面で正直きつかったです。僕は1番員の選手で、また一番若いということで期待をされていました。訓練は常に全力で走りました。他の人はかなり先に進んでいるのに、僕だけ遅れている状態が何ヶ月も続いた時もありました。やっと一通りできるようになっても、次はタイムであったり、他の団員とのコンビネーションであったり、ポンプ操法の厳しさをつくづく感じました。タイムも縮めることができ、これなら入賞できるのではと思うまでできた時は、今までよく頑張ってきたなという気持ちと、当日は全部の力を出し切るという気持ちが高まっていました。

大会当日の競技では、入賞までまだまだという結果で終わりましたが、僕はあの緊張感のある舞台上でできたことは、とてもいい思い出になったし、これからの人生で絶対に生きてくると思うし、いい経験をさせていただきました。

私は、入団7年目の45歳です。今回、小型ポンプ操法の選手に選ばれ、気持ちは20代で挑んでみました。私の担当は指揮者、チーム全体をまとめると同時にタイムを縮める体力が必要なポジションでした。初めは基本動作すら覚えられず自分自身「大丈夫か?」って思いながら練習をしていましたが、6月頃からはメンバーの息も合ってきて、「口では入賞!心では優勝!」をめざしていました。7月に入ると、昼間の仕事疲れと夜の蒸し暑さで練習終了後は、疲れていましたが帰ってからのビールを飲みながら「今日も楽しかった!」って思っていました。8月は雨や行事で練習回数が減り、思うほどタイムが縮まりませんでした。自信をもって9月7日の本番に挑みました。

大会当日、少し緊張しながら他のチームのポンプ操法を見て、「これならいけるかも!」って思いました。そして本番、声の調子も絶好調、気分も高まって「操作はじめ」の合図、ここで練習時にもしななかった痛恨のミス、右足からスタートするのに、な!なんと左足からスタート、すべての歩数が合わず頭の中が真っ白になり、それから走っても歩数が足りず、放水時にも大きく振られ、練習時にもこれだけミスの連続はありませんでした。結果22チーム中15位、あのミスがなければまだ行けたはず!悔しくてなりません。しかし応援に来てくださった皆さんからは「お疲れさま」「よく頑張った」って、温かい言葉で迎えていただき本当にありがとうございました。



選手に選ばれて

西野分団 新宅 一斗



優勝を目指して...

西野分団 佐藤 協二